

# 平成 28 年度 上越市保健体育部 活動報告

部長 國元 清光

## 1 研究主題

主体的に運動に取り組み、仲間と協力して学び合う児童生徒の育成

## 2 研究の概要

今年度は、県中学校教育研究会（以下「県中教研」）の指定研究に合わせ、上越市立潮陵中学校を会場校として公開授業を行うべく、活動を進めた。

保健体育部では、県中教研が目指す 21 世紀型能力である「論理的・批判的思考能力、問題発見・解決能力、コミュニケーション能力」の育成をテーマとした。そのために、タブレット端末（T P C）とホワイトボード（W B）を活用したファシリテーション（F T）を取り入れた学習活動の在り方を追究していくこととした。

## 3 研究の実際

(1) 単元名 器械運動（マット運動）

(2) 授業者 潮陵中学校教諭 小林 洋

(3) 指導者 上越市教育委員会学校教育課指導主事 石黒和仁 様

(4) 公開授業の概要

自分が選んだ技をより滑らかにを行うことを目指し、技に応じた課題を見つけ、仲間同士で良い演技を認め合いながら練習することをねらいとして学習に取り組んだ。

指導の手立てとしては、まず互いの課題を意識し、教え合って練習できるようにペアやグループでの学習を促した。次に自分に適した課題を見つけるために、思考を活性化できるよう、T P CやW Bで自分の姿や思考を可視化したF Tの場を設定した。



## 4 成果と課題

研究指定を受けた昨年度から実践を進める中で、W Bの活用場面や方法、T P Cを使いこなす技術、F Tと運動量の割合などの課題が明らかになっていた。本年度の授業公開に向けた取組によって、次の成果があった。

W Bは前時での活動の確認や仲間同士の情報共有のためのツールとして活用すると効果的であることが分かった。T P Cは保健体育に限らず、すべての教育活動で活用していくことで、生徒自身が使い方と有効性を身に付けることができた。

F Tの時間と運動量のバランスについては、生徒が技能の習得をある程度実感できるようになるまでは、練習時間を十分確保する必要があることが分かった。生徒の技能の習熟度に応じて、F Tの時間設定を調整していく必要がある。映像を見て分析をしたり仲間と話し合ったりすることで、深い学びにつながっていくよう授業展開を考慮する必要があることが分かった。